

統計スポット情報

No. 155

21.5.1

福井県総合政策部政策統計課

— ゴールデンウィークのご予定は？ —

新緑の季節になりました。今年のゴールデンウィークは5連休、みなさんの予定はお決まりですか？今回は、ゴールデンウィークにちなんで、こどもの日とレジャーについて取り上げてみました。まずは、県内のこどもの数についてみてみましょう。



【県内のこどもの数（15歳未満人口）の総人口に占める割合は14.38%】

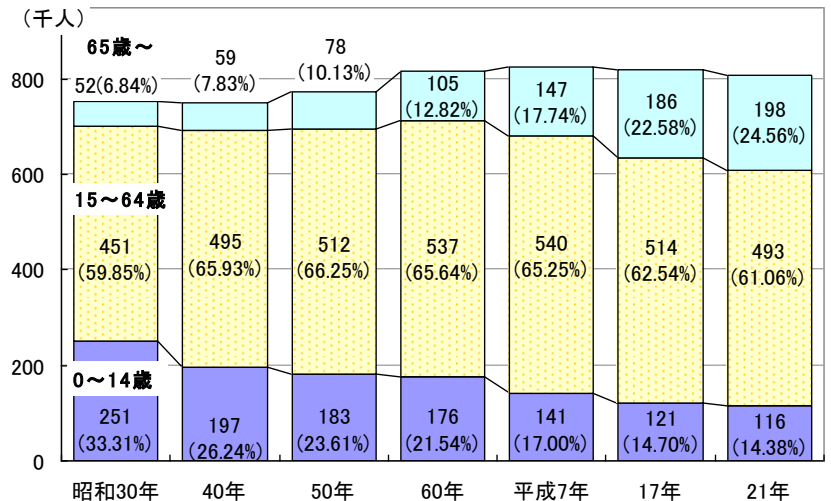
- 平成21年4月1日現在の県内のこどもの数（15歳未満人口。以下同じ。）は、前年に比べて1,223人少ない116,167人となりました。
- 男女別では、男の子が59,665人、女の子が56,502人で、男の子が女の子より3,163人多く、女の子100人に対する男の子の数は105.6人となっています。
- 年齢3区分人口と割合の推移をみると、こどもの数と割合はともに年々減少を続けています。

表1 こどもの数

		平成21年 4月1日現在	平成20年 4月1日現在	対前年増減数
こどもの数 (人)	計	116,167	117,390	△ 1,223
	男	59,665	60,306	△ 641
	女	56,502	57,084	△ 582
総人口 (人)	計	807,926	813,156	△ 5,230
	男	390,297	393,230	△ 2,933
	女	417,629	419,926	△ 2,297
総人口に占める こどもの数割合(%)		14.38	14.44	△ 0.06

資料：県政策統計課「福井県の年齢別人口（推計）」平成21年4月1日現在

図1 年齢3区分人口と割合の推移

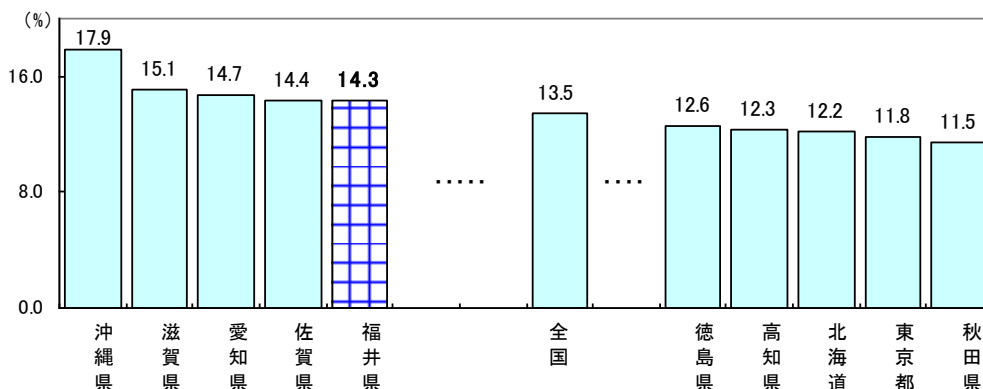


注1) 上記人口に年齢不詳は含めていない
注2) 平成21年は4月1日現在の福井県の年齢別人口(推計)、それ以外は10月1日現在国勢調査による

【こどもの数の割合は全国第5位】

- 総人口に占めるこどもの数の割合を都道府県別にみると、一番多いのは沖縄県で17.9%、最も少ないのは秋田県で11.5%となっています。
- 福井県は全国と比べて0.8ポイント上回る14.3%で全国第5位となっています。

図2 都道府県別こどもの数の割合



資料：総務省統計局「人口推計」平成20年10月1日現在

ゴールデンウィークには、旅行やレジャーに出かけられる方も多いのではないのでしょうか。
次に、レジャーに関する統計をみてみましょう。

【福井県の観光地、県内の人には「西山公園」、県外の人には「芝政ワールド」が一番人気】

- 平成 20 年に福井県の主要観光地（施設）を訪問した人の数（入込数）をみると、県内の方が最も多く訪れたのは鯖江市の「西山公園」、県外の方が最も多く訪れたのは坂井市の「芝政ワールド」になっています。
- 東尋坊、あわら温泉、越前海岸、気比神宮などの観光地は、県内・県外問わず多くの方が訪れていることが分かります。
- 県外の観光客の発地を地区別構成比でみると、関西地区が 43.7%と最も多く、関西地区および中京地区からのを合わせると全体の約 7 割になっています。

表 2 県内の方が訪れた観光地ベスト 10

順位	観光地(施設)名	入込数(人)
1	西山公園	456,000
2	東尋坊	331,000
3	あわら温泉	308,000
4	越前海岸(福井市)	280,000
5	越前海岸(越前町)	217,000
6	気比神宮	190,000
7	スキージャム勝山	184,000
8	しきぶ温泉湯楽里	183,000
9	道の駅「河野」	144,000
10	劔神社	143,000
入込数5万人以上の観光地の合計		6,400,000

表 3 県外の方が訪れた観光地ベスト 10

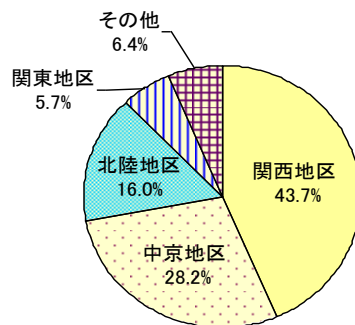
順位	観光地(施設)名	入込数(人)
1	芝政ワールド	1,349,000
2	東尋坊	900,000
3	あわら温泉	548,000
4	大本山永平寺	546,000
5	気比神宮	442,000
6	越前海岸(越前町)	434,000
7	蘇洞門めぐり	359,000
8	一乗谷朝倉氏遺跡	357,000
9	大野まちなか観光	352,000
10	越前海岸(福井市)	320,000
入込数5万人以上の観光地の合計		11,127,000

(注)5万人以上の観光地、千人以下は四捨五入

出典：いずれも県観光振興課「福井県観光客入込数（推計）」平成20年



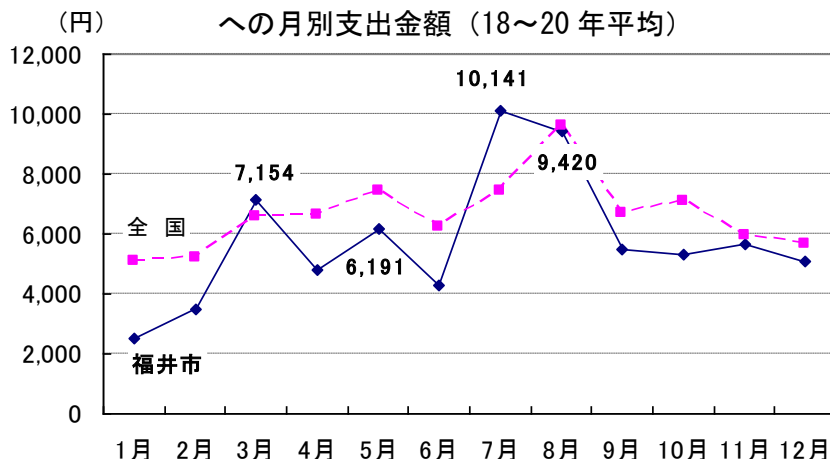
図 3 県外客の発地別入込数割合



【旅行への支出、福井市の二人以上の世帯では5月の支出金額は年間4番目】

- 二人以上の世帯の旅行（宿泊料・パック旅行）への月別の支出金額をみると、全国では、8月が最も多く、次いで7月、5月、10月となっており、7月と5月の支出は、ほぼ同じになっています。
- 一方、福井市では7月が最も多く、次いで8月、3月、5月の順で、5月の支出は、年間4番目となっており、全国とはやや傾向が違ってきます。

図 4 二人以上の世帯の旅行（宿泊料・パック旅行）への月別支出金額（18～20年平均）



出典：総務省統計局「家計調査」

【登山やハイキングはいかが？】

新緑が美しく、風もさわやかなこの時期、県内の野山に出かけてみてはいかがでしょうか。

- ・ 過去1年間（平成17年10月20日～平成18年10月19日）に登山・ハイキングを行った人について、全国をみると、15歳以上では年齢層が高くなるほど割合が高くなり、男女とも55～64歳がピークとなっています。また、15歳以上の各年齢層とも、女性のほうが男性よりも割合が高くなっています。最近、メディアで「女性や中高年の方の間で登山ブーム」と聞くことがありますが、統計上でもその傾向が表れています。
- ・ 一方、福井県をみると、15歳以上では男性は45～54歳がピークですが、女性は25～34歳と55～64歳の2つのピークがあり、また、ほとんどの年齢層で男性のほうが女性よりも割合が高いという違いがありますが、総じて「女性や中高年の方の間で登山ブーム」ということは言えるようです。
- ・ このほか、全国と比較すると、福井県では25～34歳の男性の割合が低いことや、35～45歳の女性の割合が下がっていることなどが目につきます。特にこういった年代のかたは、この連休中に、普段疎遠になっている登山・ハイキングにチャレンジされてはいかがでしょうか。

図5 過去1年間に登山・ハイキングを行った人の割合（全国）

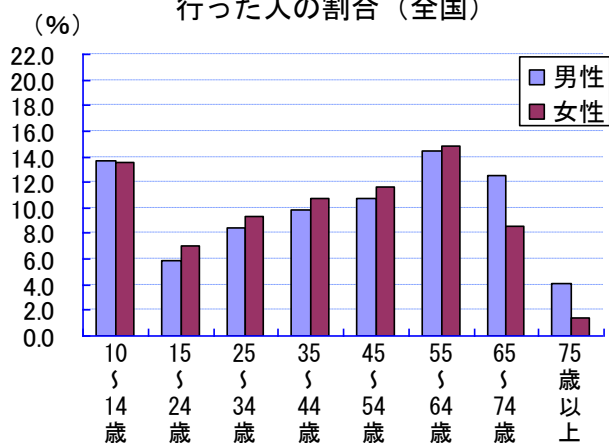
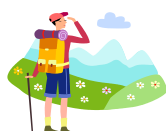
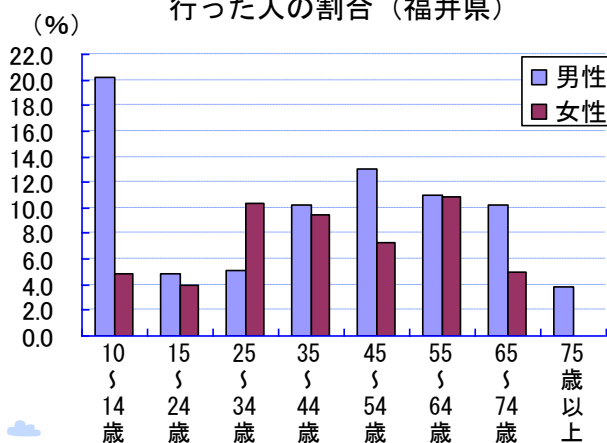


図6 過去1年間に登山・ハイキングを行った人の割合（福井県）



出典：総務省統計局「社会生活基本調査」平成18年

【ただし、登山・ハイキングの時には、くれぐれも油断は禁物】

- ・ 福井県の山岳遭難発生件数は、近隣府県と比べても少ない（平成19年 富山県117件、石川県13件、岐阜県63件、滋賀県29件、京都府21件）とはいえ、毎年死亡事故が発生しています。
- ・ 全国では遭難者数の約8割、死者・不明者の約9割が中高年の方で、本県でも中高年の方の遭難発生割合が高くなっています。山菜採りでも事故が発生していますので、慣れた山であっても、十分にお気をつけください。

表4 山岳遭難発生状況

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
福井県	発生件数（件）	7	6	6	6	3
	遭難者数（人）	20	6	6	6	3
	死者・不明者（人）	2	4	3	1	1
全国	発生件数（件）	1,321	1,382	1,417	1,484	...
	遭難者数（人）	1,609	1,684	1,853	1,808	...
	死者・不明者（人）	267	273	278	259	...



出典：福井県警察本部生活安全全部地域課「福井県山岳遭難防止マニュアル」
警察庁生活安全局地域課「平成19年中における山岳遭難の概況」

【連休中は、色々な話題で親子の会話を】

最後に、家庭内での親子（保護者とお子さん）の会話についてみてみましょう。

現在、県では、子育て中の家庭の「暮らしの質」を向上させるため、「家族時間」（子育て中の家族が、話し合い、楽しみあい、協力し合うため、ともに過ごす時間）を伸ばす運動を推進しています。

この一環として、平成20年11月に、県内の小学校2年生、5年生、中学校2年生の保護者3,525人の方にアンケート調査を行い、その中で「保護者の方とお子さんが、家庭でどのようなことについて会話しているか」を尋ねた結果が右のグラフです。

結果をみると、「学校での活動」については、各学年とも非常に高い割合で会話が持たれています。

また、「テレビや近所の話題、社会情勢などの世間話」や「将来の夢や進路」については、お子さんの成長につれて、順位が上がっています。

逆に、「お子さんの悩み事」については、お子さんの成長につれて大きく割合が下がっているほか、「お子さんの友人関係」や「家族が一緒に行う活動」、「同居でない家族や親族」のことなども、小学校2年生に比べると、中学校2年生では10ポイント以上割合が下がっています。

なお、「保護者の仕事や趣味」については、各学年ともおおむね4人に3人の割合で会話が持たれているようです。

出典：福井県「家族時間に関するアンケート調査」

図7 親子で会話する項目（小学校2年生）

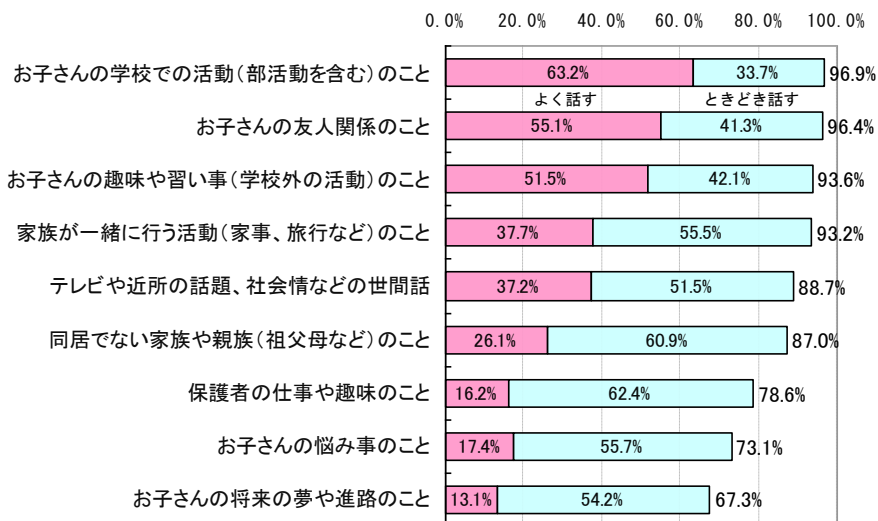


図8 親子で会話する項目（小学校5年生）

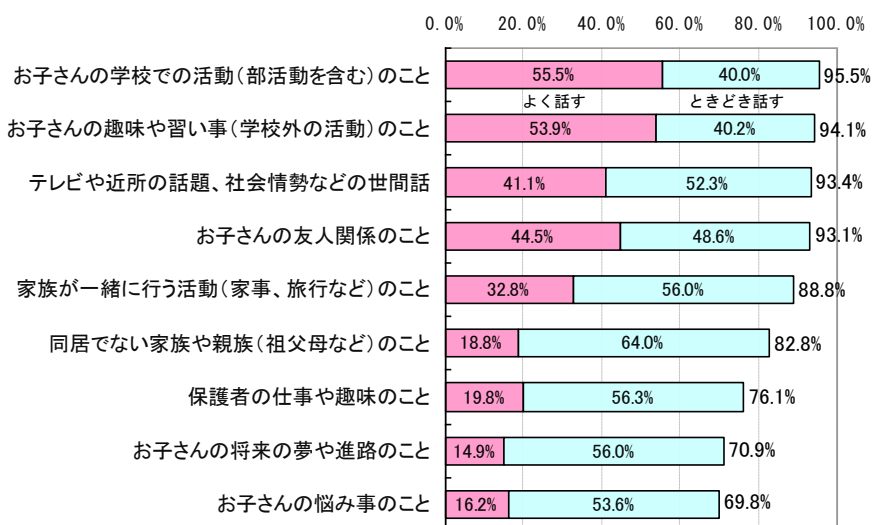
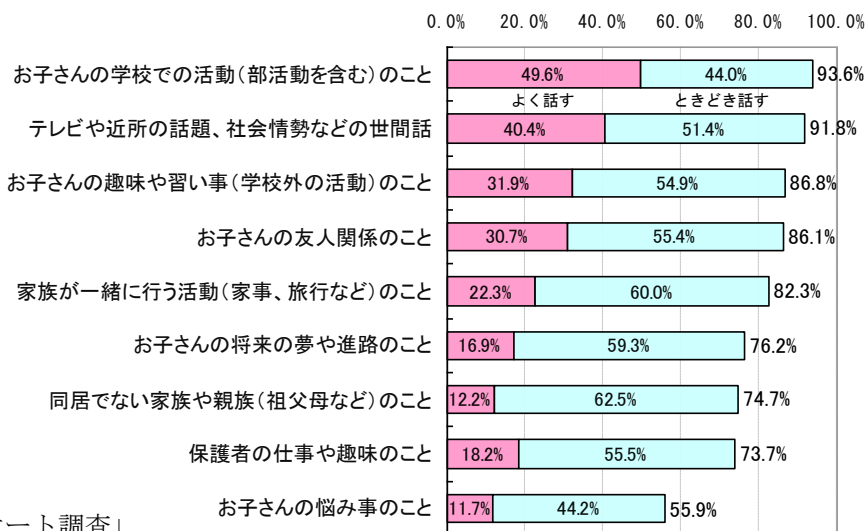


図9 親子で会話する項目（中学校2年生）



- ・ お子さんのプライバシーに関することは、親子でもなかなか話しづらくなるのかもしれませんが、「家族の活動」や「祖父母のこと」などについても会話が少なくなるのは、残念な気がします。
- ・ 一方、「保護者の仕事や趣味」のことが各学年で安定的な割合を示しているのは、保護者自身に関することですから、保護者のほうが主体となって話かけているからなのかもしれません。
- ・ 連休中は家族で過ごす機会も増えるでしょうから、家族でたくさんおしゃべりしてくださいね。